

句集

子規
—
三
様

Shiki Sanyou
Shiki Masaoka

正岡子規



正岡子規

子規三様

句集

Shiki Sanyou
Shiki Masaoka

一ページ三句の場合（前書き）

うれしさにはつ夢いふてしまひけり

水入の水をやりけり福寿草

ここらにも人住みけるよ冬の山

寒からう痒からう人に逢いたからう

ここぢやあろ家あり梅も咲て居る

焼山の大石ころりころりかな

手にとれば飯蛸笑ふけしきあり

なにがしの忌日ぞけふは冴え返れ

馬ほくほく椿をくぐり桃を抜け

力ナリヤの餌に束ねたるはこべ哉

鼻つけて牛の嗅ぎ居る木芽哉

蝶飛ブヤアダムモイブモ裸也

蒲公英やローレンティースの線の外

鶯の鳴きさうな家ばかりなり

たらちねの花見の留守や時計見る

板の間にひちひちはねるさくらだひ

蜂の巣に蜂の居らざる日和哉

口あけて屋根迄来るや鳥の子

桐の花めでたき事のある小家

もちもちといんきのねばる五月哉

ビル苦く葡萄渋し薔薇の花

城山の浮かみ上るや青嵐

とんねるに水踏む音や五月闇

六月を綺麗な風の吹くことよ

花
一
つ
一
つ
虹
も
つ
葵
哉

梅
雨
晴
や
と
こ
ろ
ど
こ
ろ
に
蟻
の
道

田
か
ら
田
へ
う
れ
し
さ
う
な
る
水
の
音

一ページ二句の場合（前書き）

うれしさにはつ夢いふてしまひけり

水入の水をやりけり福寿草

ここらにも人住みけるよ冬の山

寒からう痒からう人に逢いたからう

ここぢやあろ家あり梅も咲て居る

焼山の大石ころりころりかな

手にとれば飯蛸笑ふけしきあり

なにがしの忌日ぞけふは冴え返れ

馬ほくほく椿をくぐり桃を抜け

力ナリヤの餌に束ねたるはこべ哉

鼻つけて牛の喰ぎ居る木芽哉

蝶飛ブヤアダムモイブモ裸也

蒲公英やローランテニスの線の外

鶯の鳴きさうな家ばかりなり

たらちねの花見の留守や時計見る

板の間にひちひちはねるさくらだひ

蜂の巣に蜂の居らざる日和哉

口あけて屋根迄来るや鳥の子

桐の花めでたき事のある小家

もちもちといんきのねばる五月哉

ビル苦く葡萄酒渋し薔薇の花

城山の浮かみ上るや青嵐

とんねるに水踏む音や五月闇

六月を綺麗な風の吹くことよ

一ページ一句の場合（前書き）

うれしさにはつ夢いふてしまひけり

水入の水をやりけり
福寿草

こ こ ら に も 人 住 み け る よ 冬 の 山

寒からう 痒からう 人に逢いたからう

ここぢやあろ家あり梅も咲て居る

燒
山
の
大
石
こ
ろ
り
こ
ろ
り
か
な



句集あとがき

朝日新書夏井いつき著『子規

365日』より抜粋

作者プロフィール

正岡子規

松山市出身の俳人、歌人、国語学者
研究科。

句集 子規三様
2013年4月30日 第1版発行

著者
○○○○

表紙写真
○○○○

編集
家藤正人

装丁
キム・チャンヒ

発行者
三瀬明子

発行所
有限会社 マルコボ.コム
愛媛県松山市永代町 16- 1
電話 (089)906-0694

印刷所
株式会社松栄印刷所

HAKU LIFE
100年俳句計画

